

1991年に最上段に帰らせていただき、早いもので30年が過ぎました。

勝てない日々、勝てた時の喜び、様々なことができました。

その間にやらせていただいたのは、今年3月にお亡くなりになった田辺範和先生をはじめ、武田和行先生、井上雅行先生、長年コーチをしてくださった岡光龍三さん、お世話になった先輩方、たくさんの方々からいただいた教えを生徒たちに伝えることでした。そしていただいた教えをなんとか形にしようと、その時々を生徒たちと一緒に一生懸命やってきました。

その結果、中国大会に出場でき、県ベスト8の常連となり、高円宮杯 JFA U-18 サッカーリーグ広島(アドバンスリーグ)では1部で3シーズン戦うことができました。

サッカーの戦績だけではなく、OB会の結成、OB会報誌発刊、OBチームの結成、初蹴りの充実、また他校の指導者からも我々のホームグラウンドを“最上段”と呼んでいただけるなど、広島県内はもちろん中国地方においても広島城北は“熱い”チームとの評価を頂けるようになりました。

我々は、全国の強豪校のような施設、資金があるわけではありません。皆さんと一緒に積み上げてきた手作りのチームです。私が現役時代の最上段は、水道もなくデコボコで、冬になればすぐに真っ暗になり、練習には苦勞しましたが、現在では水道もあり、日の暮れるのが早い冬でも簡易の照明があります。水道設置や照明用の電気配線工事は保護者の方にやっていただきました。そしてデコボコのグラウンドは、現役部員が毎日レーキやブラシで整備をしてきました。(グラウンドはいまだにデコボコですが・・・人工芝が欲しい。)

30年間、強い想いを持ってやらせていただきましたが、全国大会出場という目標を達成できていません。今後もその目標に向かって進んでいくとともに、中高一貫指導の充実、スペシャルな選手の育成、とびぬけた人材の輩出、チームの強化、人工芝グラウンド・・・などなど…。

まだまだ、やりたいことがたくさんありますので、スタッフ・選手一丸となり取り組んでいきたいと思っております。

現在では世界や日本の情勢、そして教育を取り巻く環境はめまぐるしく変化していますが、広島城北は広島城北で、最上段は最上段であり続けていきます。そのうえで、広島城北最上段が今よりも輝き、熱き魂が宿る温かい場所であり続けられるように、そしてより良い形で次世代に引き継ぐ準備をしていくため、今まで以上に強い想いをもって最上段に立たせていただくのはもちろんのこと、一度最上段をぶっ壊すぐらいの勢いで想いをぶつけていきたいと思っております。

まだまだ述べたいことはたくさんありますが、文才が足らず、まとまらなくなりそうなので、残りはまたの機会にお願いします。

来年正月の初蹴りは、中止することになりましたが、これからもみんな力で力を合わせ
ONE CLUB でいきましょう！

2020年12月吉日